

Gemini 3.0に関する最新情報と分析

リーク情報と開発状況の噂

Gemini 3.0は、Google DeepMindが開発中とされる次世代の大規模AIモデルです。2023年末のGemini 1.0公開以降、2024年末の2.0、2025年前半の2.5と毎年アップデートが重ねられており¹、その次のメジャーバージョンにあたる3.0の登場が期待されています。実際、Google社内のオープンソースCLIツールのコード上で「**gemini-beta-3.0-pro**」や「**3.0-flash**」というモデル名の記述が発見されており、Gemini 3.0のテストが進行中であることがリークされています²。この「3.0」というバージョン番号は、現在の「Gemini 2.5 Pro」の後継となる**大幅なアップグレード**を示唆するものです³。

さらにSNS上には、未確認情報ながら**Gemini 3.0のベンチマーク結果**が投稿されて話題になりました。その投稿によると、Gemini 3.0は高度な推論力を測る非公式テスト「Humanity's Last Exam」で**32.4%**というスコアを記録したとされています（参考：GPT-5の噂スコア26.5%、xAI社のGrok 4で23.9%）⁴。この真偽不明のリークが事実だとすれば見出し級の飛躍ですが、Googleから公式発表は無く、現時点では**確証のない噂**の域を出ません⁴。ただ、社内コードからモデル名が見つかったことは「ソフトな確証」とも言え、AIコミュニティではGemini 3.0の存在が既成事実として受け止められ始めています⁵。

Gemini 3.0で噂される新機能

現在までに報じられたリーク情報や専門家の推測から、Gemini 3.0には以下のような**画期的な新機能**が搭載されると噂されています。

- ・**アーキテクチャ刷新と高度な推論**: Gemini 3.0ではモデル構造が一新され、**Mixture-of-Experts (MoE)**型の分散アーキテクチャを採用するとの見方があります。既にGemini 2.5では約1280億パラメータのMoE Transformer（16個のエキスパートを動的選択）に加え、出力を検証する**約120億パラメータの「バリファイア」**モジュールを組み合わせて高精度な推論を実現していたとされます⁶。Gemini 3.0ではこのエキスパートシステムがさらに拡充・洗練され、推論時に逐次的な思考展開を行う「**Deep Think**」機能（チェイン・オブ・ソートによる自己検証）が標準で組み込まれる見込みです⁷。つまり**回答生成の各ステップで内省的なプランニングを行い、自動で推論誤りを減らす仕組み**がデフォルトになると噂されています⁷。（現行のGemini 2.5ではDeep Thinkモードを手動でONにする必要がありました。）
- ・**コンテキスト長の飛躍的拡大**: 文脈保持能力も大幅に向上すると言われます。Gemini 2.5が既に**100万トークンもの巨大なコンテキストウィンドウ**を実験的に備えており、半分の長さでも99%以上の情報を保持できると報告されています⁸⁹。Gemini 3.0ではこれをさらに上回る「**数百万トークン規模**」に達すると予想されています¹⁰。膨大なドキュメントや複数の会話履歴を丸ごと読み込んでも一貫性を保てるようになり、法律文書の分析や大規模な文献レビュー、長時間の協調作業などで真価を発揮すると期待されています¹⁰。これだけの長さは**従来モデルを桁違いに凌駕**しており（参考：GPT-4は最大32kトークン、Claude 2が100kトークン）、まさに飛躍的な文脈保持と言えます。
- ・**マルチモーダル対応の強化**: Geminiシリーズは当初からテキスト以外の入力にも対応するよう設計され、2.5時点でテキスト・画像・音声・短い動画を単一モデルで扱えるまでに進化しました¹¹。次の3.0では**リアルタイム動画（毎秒60フレーム）**の理解や、**3次元オブジェクト・地理空間データ**の解析にも対応すると噂されています¹²。これはライブ映像の要約や拡張現実（AR）ナビゲーション、ロボットの高度な視覚認識などを直接モデルがこなせることを意味します¹²。異なるモーダリティ間

の知識を単一アーキテクチャで統合し、人間に近い汎用的な理解・生成能力を発揮することが目標とされています¹³。

- ・**コーディングや論理推論タスクへの特化:** Gemini 3.0は汎用モデルでありながら、特定のタスク分野でも競合を凌駕する性能が期待されています。特に**コーディング能力や数学的・論理的推論**において、現行の2.5より大きな飛躍が予想されています¹⁴。Gemini 2.5 Proは既にコード生成や数学問題でGPT-4を上回る水準にありましたが¹¹、3.0では内蔵された高度推論機能（Deep Think）により更なる正確性向上が見込まれます。また、マルチモーダル対応強化により**プログラミング以外の専門分野**（科学技術計算、デザイン、医療分析など）についても、それぞれの**専門ツールを内蔵した“エキスパート”**のような振る舞いができるのではないかと期待されています。実際、GoogleはGeminiのカスタム実行モード（「Gems」等）を通じてユーザーが特定タスクに特化したペルソナを設定できる機能の研究も進めています¹⁵。
- ・**推論応答速度の向上:** 大規模化と高機能化に伴う**レイテンシ（応答遅延）の増大**を抑える工夫もなされています。Gemini 2.5の高速版「Flash」は高性能ハード上で平均1.2秒程度の応答を実現しましたが、3.0ではGoogleの新世代アクセラレータ**TPU v5p**を活用し、さらに最適化されたアルゴリズムによって**ほぼリアルタイムに近い応答**を目指すとしています¹⁶¹⁷。大規模モデルでありながら対話の体感速度を損ねないことは、幅広い製品応用の鍵となります。
- ・**ツール使用・エージェント機能の高度化:** Gemini 2.0以降、「Project Mariner」によってLLMがブラウザや他アプリと連携してタスクを遂行する**エージェント機能**が試験導入されました¹⁸。Gemini 2.5ではブラウザ操作やコード実行などを単一エージェントが行えましたが、3.0では**複数のエージェントを並行動作させるマルチエージェント・オーケストレーション**が可能になると噂されています¹⁷。これにより、モデルが複数の外部ツール/APIを組み合わせて**プランを立案・実行し、結果を統合してユーザーに返答する**といった、より自律的で複雑なタスク遂行が期待できます¹⁷。例えば「ウェブで情報収集→表計算ソフトで計算→結果を文章化して報告」という一連の処理をモデルが裏で自動的にこなすイメージです。また、こうしたツール使用を安全かつ効率的に行うため、**思考過程の可視化ツール**や**“思考の予算”制御**といった開発者向け機能も提供される見通しです¹⁹。

以上のように、Gemini 3.0は**大幅な性能向上と多機能化**が噂されています。Demis Hassabis氏（Google DeepMind CEO）は公式ブログで「Geminiを世界をモデル化できるAI（world model）へ拡張し、計画を立て想像する能力を持たせる」と述べており²⁰、このビジョンが3.0で具体化すると考えられます。実現すれば、文字通り「なんでもできる」汎用AIアシスタントに一步近づくことになるでしょう²¹。

専門家による性能予測と競合モデルとの比較

Gemini 3.0の性能について、専門家や業界アナリストたちは非常に高い期待を寄せています。前述のリーク情報が示唆するように、推論力の指標で**OpenAIの次世代モデルGPT-5すら凌駕する可能性**が取り沙汰されています⁴。たとえば「Humanity’s Last Exam」の非公式スコアでは、Gemini 3.0がGPT-5を上回るとの噂が広まりました²²。また、現行のGemini 2.5 Pro自体が知識テストMMLUで約90%という驚異的正解率を記録し（GPT-4は約86%）¹¹、数学・科学・コーディングなど複数分野のベンチマークで最先端となっていることから、**3.0ではさらに大幅な性能向上**が見込まれます。

主要競合との比較では、Gemini 3.0はOpenAIやAnthropicなど他社の次世代モデルと真っ向から競合する立場にあります。Googleは3.0のリリース時期を**他社動向とぶつけてくる可能性**があり、実際に「OpenAIがGPT-5を前倒し発表すればGoogleもGemini 3.0の投入を加速させるだろう」との分析があります²³²⁴。2025年後半にはElon Musk氏の新興企業xAIによる「Grok 4」や、AnthropicのClaude次世代モデル（Claude 3やClaude “Sonnet”シリーズ）の発表も噂されており、ちょうどそれらに対抗するタイミングでGemini 3.0を「切り札」としてぶつける戦略が示唆されています²⁵。実際、Gemini 3のコード上でのリークが競合発

表直前に見つけたことから、Googleが性能面でリードを奪う狙いで投入準備を進めているとの見方もあります²⁵。

各社モデルの具体的な比較では、**コンテキスト長**が一つの争点です。Anthropicは既にClaude 2で100kトークン、研究版のClaude Sonnetでは**100万トークン**というウルトラ長文脈に挑戦しており²⁶、OpenAIもGPT-4の32kを超える次期モデルを模索中です。Gemini 3.0が実現すれば、その「数百万トークン」級ウィンドウは**群を抜く最大値**となり、文脈長競争でリードすると見られます¹⁰。

また**マルチモーダル能力**でも、画像・音声・動画・3Dと幅広いデータを単一モデルで扱えるGeminiは、**テキスト中心のGPT系モデルとの差別化要因**となります¹²。OpenAIもGPT-4で画像入力を導入しましたが（Vision機能）、Googleは検索・地図・YouTube等自社プラットフォームと連携したマルチモーダルAIサービスを展開できる強みがあります²⁷。例えば検索クエリに対し動画で回答する機能や、Googleマップ上で経路案内をAIが行う等、**エコシステム全体でAIを活かす戦略**はGoogleならではの優位と言えます²⁷。

総合的に見て、専門家らはGemini 3.0を「次世代のAI競争における**Googleの本命**」と位置付けています²⁸。OpenAIのGPT-5やAnthropicの次世代Claudeが登場すれば短期的な性能比較は避けられませんが、Googleは強力なTPUインフラによる学習効率や、大規模製品群への統合による実用性で他社に優位性を発揮するだろうと分析されています²⁹³⁰。「GPT-4を凌駕しGPT-5に匹敵、あるいは上回る最初のモデルがGemini 3.0になる可能性がある」との声もあり、AIコミュニティ内の期待値は極めて高いものがあります。

想定される応用分野とユースケース

噂されるGemini 3.0の技術仕様からは、このモデルが**幅広い製品・サービスに応用**される未来が見えてきます。GoogleはGeminiを単なるChatGPT的なチャットボットに留めず、「あらゆるデバイスやアプリでユーザーを支援する**普遍的AIアシスタント**」に位置付けています²¹。具体的なユースケースの予測を以下にまとめます。

- ・**スマートフォン・モバイル分野**: 次期Pixelスマートフォンでは、Gemini 3.0を活用した「**カメラコーチ**」機能が搭載されるとのリークがあります³¹。撮影時にリアルタイムでライティングや構図のアドバイスを表示するなど、写真撮影をAIが支援する機能です。また「会話型フォトエディタ」として、ユーザーが声で指示するだけで画像編集を行う高度な機能も検討されています³¹。さらに**スマートウォッチ**（Pixel Watch）においても、リマインダーや健康管理を文脈に応じて提案する**高度な音声AIアシスタント**としてGeminiが組み込まれると報じられています³²。これらは「端末に直接組み込まれ、ユーザーと常時対話できるAI」の実現例であり、Gemini 3.0の軽量版（Flashモデルなど）がデバイス側でも動作する可能性もあります。
- ・**検索エンジン・情報サービス**: Google検索は現在、生成AIによるサマリー表示（SGE: Search Generative Experience）を試験展開していますが、Gemini 3.0によりこれが一層強化されるでしょう。具体的には、検索結果にテキスト要約だけでなく**AI生成の動画で解説**したり、画像・地図データを組み合わせて**対話的に答える**などリッチな応答が可能になると予想されます³³。実際、Google内部で「Video Overviews」と呼ばれる動画回答機能のテストが確認されており、難解な質問に対して短い動画クリップで回答を提示するような使い方が検討されています³⁴。Gemini 3.0のマルチモーダル能力と長大な文脈保持は、このような**インタラクティブで高度な情報提供**に適しています。
- ・**ビジネス文書作成・オフィスアプリ**: Google Workspace（Gmail、ドキュメント、スプレッドシート等）にもGemini 3.0が深く統合され、**Duet AI**で提供中の支援機能を飛躍的に拡充すると見られます。例えば、Gmailでは過去のメール文脈を長期間保持して**よりの確な下書き提案**を行ったり、ドキュメントでは複数資料を読み込んで**プロジェクトの要約や進捗管理**を自動化したりといったことが可能になるでしょう³⁵。会議の自動要約やアクションアイテム抽出、スライド資料の自動生成なども

Gemini 3.0の得意分野です。**1M+トークンの文脈**を活かし、社内の大量文書やチャットログを横断して分析・要約することで、企業の知的生産性を大きく向上させると期待されています³⁵。

- ・**Androidアシスタント・OS機能:** スマホOSであるAndroid自体への組み込みも予定されています。Android 16の開発者プレビューのコードに、従来の「Google Assistant」を**Gemini**で置き換える記述が見つかっており、「2025年後半」にデバイス上でGeminiがデフォルトの音声インターフェースになることが示唆されています³⁶。これが実現すれば、ユーザーは「Ok Google」の代わりに高度化したGemini AIと対話できるようになります。例えば画面に表示中の内容を理解して**要約したり、ワンタップで関連アクションを実行**したり（例：Web記事を読んで要点をメールで共有する）といったことが音声コマンド一つで可能になるでしょう³⁷。スマホが**シームレスに賢くなる**ことで、日常の利便性が大きく向上すると考えられます。
- ・**クラウドサービス・開発者向け利用:** GoogleはGeminiを自社クラウド（Google Cloud）の**Vertex AI**プラットフォーム経由でも提供し、企業や開発者がアプリに組み込めるようにします¹⁹。Gemini 3.0では「Gemini 3 Pro」「Gemini 3 Ultra」など複数性能レンジのモデルが用意され、用途に応じ選択できる見込みです³⁸。開発者には**チェイン・オブ・ソートの可視化ツール**や**推論深度の調整（思考予算）**設定が提供されるとも報じられており¹⁹、モデルの推論プロセスを制御・監視しながら自社システムに統合できるよう配慮されています。企業は自社データでのカスタムチューニングや、データプライバシーに配慮した専用環境でGeminiを動かすことも可能になるでしょう³⁹。これにより、たとえば**マーケティング部門**が自社データから数分でキャンペーン戦略を生成したり、**データ分析部門**が膨大なレポート類をAIに読ませて要点を抽出させたりといった応用が想定されます⁴⁰。Googleはこれらを**低コストで強力な基盤AIサービス**として提供し、競合他社から開発者コミュニティを引き付けたい考えです³⁰。
- ・**創造分野・エンターテインメント:** マルチモーダルかつ高性能なGemini 3.0は、クリエイティブな用途でも革新的な使われ方をしそうです。たとえば**子供の描いた絵を取り込むと、その場で物語を考えナレーション付きの絵本にしてくれる**といったデモンストレーションが噂として挙がっています⁴¹。またスケッチしたUIデザインから即座に動くアプリのコードを生成する「スケッチ to アプリ」的な機能も示唆されています⁴²。写真愛好家にとっては、撮影中にプロ並みのアドバイスをリアルタイムでもらえたり、保管している写真から**自動でアルバムやムービーを編集**してくれるようなことも可能になるでしょう⁴⁰。このように、Gemini 3.0は**創造性を引き出し、アイデアを即形にするパートナー**として、一般消費者向けのエンタメ領域でも活用が期待されます。

以上のように、Gemini 3.0は検索・ビジネス・モバイル・開発・創作など**あらゆる分野での活用**が予測されています。Google自身、「Geminiを静止したチャットbotではなく、現実世界でユーザーと共に見て考え行動するリアルタイムAIにする」と強調しており⁴³、単なる対話モデルを超えた**包括的AIエコシステム**の中核に据えようとしています⁴⁴⁴³。

AIコミュニティの期待と懸念事項

Gemini 3.0に寄せられる**期待**はAIコミュニティ内で非常に大きく膨らんでいます。一方で、その**潜在的な限界や倫理的懸念**についての議論も始まっています。

まず期待の面では、多くの研究者・開発者が「Gemini 3.0がAI技術の次の飛躍になる」と考えており、公開前から「史上最も高性能なモデルになるのでは」との声も聞かれます。特にGoogleが提示した世界モデルやエージェント機能のビジョン²¹に対して、「いよいよ**汎用人工知能（AGI）の片鱗**が見られるのではないか」といった期待感もあります。また、オープンソース界限でもGeminiで使われる新技術（超長文脈やMoE構造など）が今後公開されれば、自分たちのモデル開発にも応用できるのではと注目を集めています。専門家の中には「Gemini 3.0は近年でもっとも待ち望まれているAI進歩の一つだ」と評価する向きもあります⁴⁵。

一方で懸念も存在します。まず技術的限界として、**真に多機能・高性能なモデルを安全に制御できるか**という問題があります。Gemini 3.0が多彩な能力を持つほど、その出力の**予測不可能性**や**意図しない振る舞い**への不安が指摘されます。特にチェイン・オブ・ソートで高度な自己判断を行うことから、開発者が予期しない方向に「暴走」しないよう、厳格なテストと**安全策（ガードレール）**が必要です。またコンテキストを極端に長く保持できることは裏を返せば、入力データに過敏に引きずられて**不適切な連想**を生むリスクもあります。莫大な計算資源を要するモデルだけに、実運用でコスト・応答速度を両立できるのかという現実的な課題も議論されています。

倫理的・社会的懸念としては、**誤用や乱用**のリスクが挙げられます。Gemini 3.0が生成するコンテンツの**信憑性**や**偏見**の問題、さらには画像・動画生成を含めた場合の**ディープフェイク悪用**など、既に他のAIでも指摘されている懸念が一層高まる可能性があります。また、Geminiのように**マルチモーダルで人間同様に振る舞えるAI**が普及すると、人々の仕事に与える影響（業務の自動化や一部職種の不要化）や、人間同士のコミュニケーションのあり方に与える影響を不安視する声もあります。AIがあたかも**意志を持つエージェント**のように行動することに対する心理的抵抗感や、「AIに任せきりにすること」の倫理も議論の対象です。

こうした懸念に対し、Googleは**安全性と責任あるAI開発**を強調しています。実際、Geminiの開発プロセスでは大規模な倫理リスク調査が行われており、研究者チームが高度AIアシスタントの倫理的課題を分析して結果をフィードバックしているといえます⁴⁶。具体的な対策として、モデルの**バイアス検出**や**有害コンテンツのフィルタリング**を徹底し、継続的なモニタリングで問題発言を監視する仕組みを導入しているとの報告があります⁴⁷。これはつまり、Gemini 3.0においても応答の公平性・安全性を担保するため、人種や性別などに関する偏った出力をテストで洗い出し、問題があれば学習データや出力ルールを調整するなどの措置が取られることを意味します⁴⁷。Googleはまた、開発者向けの利用ガイドライン「Gemini APIの安全利用指針」を公開し、誤用防止のための設計上の注意点を示すなど透明性にも努めています⁴⁸。

コミュニティ内には「Googleならこれら懸念に対処できるだろう」という楽観論と、「技術競争が激化する中、安全より速度が優先されるのでは」との慎重論が混在しています。とはいえ概ね、Gemini 3.0に対する期待が懸念を上回っている状況であり、多くのAI研究者・実務者がその**正式発表を心待ち**にしているのが現状です。

現時点で推測されるGemini 3.0の全体像

以上の情報を総合すると、**Gemini 3.0**の姿がかなり明確に浮かび上がってきます。ただし、その全てが公式に確認されたわけではないため、以下は現時点で考えられる推測的な全体像となります。

Gemini 3.0は、おそらく2025年末頃にプレビュー版が登場し、2026年初頭までに本格展開される見込みです⁴⁹⁵⁰。Googleのこれまでのリリースサイクル（年1回のメジャーアップデート）や、Androidコードに示唆されたタイミング³⁶を考えると、**2025年Q4（10～12月）**に企業向け先行公開・12月に一般API提供、翌年初頭に消費者向け機能解禁というスケジュールが有力です⁵¹⁵²。ただし競合他社の動き次第では前倒しや遅延の可能性もあり、正式発表のタイミングには柔軟性が残されています²³。

性能面では、Gemini 3.0は現行最高峰のGPT-4やClaude 2を凌ぎ、OpenAIが将来出すであろうGPT-5クラスに匹敵する「**フロンティアモデル**」になると期待されます²⁸。既存情報によれば、論理推論・専門知識・コーディング能力といったあらゆる評価軸でトップクラスのスコアを叩き出す見通しです。特にAlphaGo譲りの計画立案能力や内省的推論が組み込まれることで、**複雑な課題を自己修正しながら解決できる初の汎用AI**に近づく可能性があります⁷²¹。

機能面では、テキスト・音声・画像・動画・コードといった多様なデータを一つのモデルで理解・生成し、極めて長い文脈を保持し続ける能力を持つでしょう¹²¹⁰。また、外部ツールやアプリと連携して複数ステップのタスクを自律的にこなせるなど、AIを**能動的なエージェント**として利用する道を開くものとなりそうです¹⁷。Demis Hassabis氏が語ったように、「あらゆるデバイス上でユーザーの文脈を理解し、計画を立

て行動してくれる**ユニバーサルAIアシスタント**」という構想が、Gemini 3.0によって実現に一步近づくとと言えるでしょう ²¹。

応用面では、Googleの幅広いプロダクト群（検索、Android、YouTube、Workspace、クラウド等）の背後にGemini 3.0が静かに組み込まれ、ユーザーは意識せずとも高度なAIの恩恵を受ける世界が想像されます ⁵³ ²⁷。例えば検索結果の自然な要約や対話型の情報取得、スマホでの個人秘書のような支援、職場での資料自動生成・分析、開発現場でのAIコーディングアシスタントなど、**日常生活からビジネスまであらゆる場面の裏でGemini 3.0が活躍すると予測されます** ⁵³ ³⁵。多くのユーザーはバージョン番号を意識しないまま、気付けば「最近AIが以前にも増して賢く便利になっている」と感じるようになるでしょう ⁵⁴。

もっとも、現時点で出回っている情報の中には誇張や不確かなものも含まれます。特にベンチマークスコアなど一部のリークは未検証であり、実際の製品版が噂通りの性能を示すかは**正式な評価を待つ必要があります** ⁴。しかし、コードリークや複数の信頼筋による報道が示す内容は概ね一貫しており、Google自身も公式ブログ等でGeminiの目指す方向性を語っていることから ⁵⁵、**現段階の噂の信憑性は比較的高い**と言えます。少なくとも「マルチモーダル強化」「長文脈化」「内蔵推論能力の向上」といった点は、Googleが公式に打ち出した戦略と合致しており ²⁰ ⁵⁶、3.0で実装される可能性が極めて濃厚です。

総括すると、Gemini 3.0は「**テキストを超えた次世代AI**」として、あらゆるデジタル体験に知能を織り込むことを目指した壮大なプロジェクトです ⁴³。もし噂の半分でも実現すれば、日常生活の中でAIが果たす役割を再定義し、人々の生産性や創造性を飛躍的に高める**ゲームチェンジャー**となるでしょう ⁴³。その正式発表と今後の展開に、世界中の注目が集まっています。

参考文献・情報源: ³ ⁴ ⁶ ¹⁰ ⁷ ¹⁴ ³¹ ³³ ³⁷ ²⁸ ⁴⁶ ⁴⁷ ²¹

¹ ⁶ ⁸ ⁹ ¹¹ ¹⁶ ¹⁹ ²³ ²⁴ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³³ ³⁴ ³⁵ ³⁶ ³⁷ ³⁹ ⁴⁵ ⁴⁹ ⁵² ⁵³ ⁵⁴ Google's Gemini 3.0: Here Is All We Know and What to Expect | Fello AI

<https://felloai.com/2025/06/googles-gemini-3-0-here-is-all-we-know-and-what-to-expect/>

² ⁷ ¹⁰ ¹² ¹³ ¹⁷ ³⁸ ⁵⁰ ⁵¹ Gemini 3.0 Exposed: What will it bring and when will it be released? - CometAPI - All AI Models in One API

<https://www.cometapi.com/gemini-3-0-exposed-what-will-it-bring/>

³ ¹⁴ ²⁵ ²⁶ Gemini 3 references hint at Google DeepMind's next AI model

<https://www.testingcatalog.com/gemini-3-references-found-in-code-hint-at-google-deepminds-next-ai-model/>

⁴ ⁵ ²² ³¹ ³² ⁴⁰ ⁴¹ ⁴² ⁴³ ⁴⁴ Gemini 3.0 Leak Hints Google's AI Could Outrun GPT-5 | by Evolution AI Hub | Aug, 2025 | Medium

<https://medium.com/@evolutionaihub/gemini-3-0-leak-hints-googles-ai-could-outrun-gpt-5-7aa61d3bfdbf>

¹⁵ Google's Gemini AI: The Multimodal Supermodel Aiming to Outshine GPT-4 and Beyond

<https://ts2.tech/en/googles-gemini-ai-the-multimodal-supermodel-aiming-to-outshine-gpt-4-and-beyond/>

¹⁸ ²⁰ ²¹ ⁴⁶ ⁵⁵ Google I/O 2025: Gemini as a universal AI assistant

<https://blog.google/technology/google-deepmind/gemini-universal-ai-assistant/>

⁴⁷ Bard is Now Gemini: A Complete Technical Breakdown | by ANIL KUMAR | GCP 13x Certified | Gen AI Architect | Medium

<https://medium.com/@gcp.akp/bard-is-now-gemini-a-complete-technical-breakdown-1e4eb5f3b213>

⁴⁸ Safety guidance | Gemini API | Google AI for Developers

<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/safety-guidance>

⁵⁶ Gemini 2.5: Our newest Gemini model with thinking

<https://blog.google/technology/google-deepmind/gemini-model-thinking-updates-march-2025/>